勞友會案に對する白仁長官の答辯

諭告に一字一句訂正せず

兩會幹部の作業視察

大日本友愛會八幡出張員木村錠吉、藤田文六、柳田前一の三氏は勞友會理事相原住藏、齋東年氏等と今回の罷工事件の結末まで提携する事を約し十日朝共に製鐵所に白仁長官を訪ひ中山憲兵分隊長立會の上勞友會の要求案に對する明答を求めた、之れに對し長官の答辯は去る七日一般職工に對して與へたる諭告に一字一句を訂正する必要なしと告げ向は今回罷工の不良職工に對しては或は馘首するやも知れず但し最初勞友會の要求に接したる時は同會單獨の要求と推察したるが其の後の情報に依り今回の要求案が職工全部の意志なることを諒解したり、俸給に就いては今期議會に於て殆ど九分九厘まで通過する見込なれば職工各自に隨意されたしと言明したるが勞働組合に就いては製鐵所としては認め難しとて不徹底なる口吻もありたれば友愛會及び勞友會幹部等は口を噤みてそのまゝ物別れとなり更に兩會幹部は中山憲兵分隊長及び名倉八幡警察署長附添の上構內各工場を巡視したり、工場內には獨憲兵巡査が正規の休憩時間にも干渉して高壓的に作業せしめ居る嫌あれば職工監督者も之にはホトホト閉口し居れることを兩會幹部に語りたる由、工場巡視を了ると共に更に兩會幹部は齋藤警察部長との會見を試みたるが同部長は警戒手加減のため友愛會及び勞友會今後の方針を聞き質したるも是れ亦雙方の意思疏通せずして袂を別つこととなりたり

安河內知事來幡　安河內福岡縣知事は八幡製鐵所の今回の事件に對し同長官其の他見舞ひの爲め十日朝午前九時半八幡市に來れり（八幡電報）

警務局長が乞食に

變裝して京城丸に免れ

船底の物置に潛んで危く助かる

下關から神戶へ

[illegible]

りて之を捕へんとするより同氏は逃げながらに船長に懇願して船艙室の最下部に在りて身動きもならぬ程の狹苦しき物置にかゞみ込み一晝夜を送り漸くにして其難を免れ得たりと京城丸に氏を訪へば今猶過激派の襲來を恐れつゝ妻子とも別れて漸く此處まで逃げて來たが是れからはどうすることも出來ないから取敢へず自分と共同で日本の植木商を營んだノルリス商會を横濱に訪ね相談の上、上海邊りに行かうかと思つてゐると語れり（下關電話）

機關車と客車二輛

轉覆して破壞

乘客等十數名負傷

十日夜七時三十五分横須賀發東京行上り旅客列車が同八時五分大船驛構內に入らんとする際同驛にては午後七時東京驛を發したる神戶行一二等急行列車が三分程遲延したるも通過せざる爲危險信號を掲げ前記列車が本線に進入せざる樣ポイントを爲し置きたるに横須賀發列車は斯くとも氣付かず進行を續けし爲猛烈なる勢ひを以てポイントの齒車留を破壞し遂に安全側線に進入し機關車は脫線轉覆し半ば地中に埋まり次のボギー車二輛も亦脫線轉覆破壞したるが機關手火夫の二名負傷し四五十名の乘客中十數名打撲傷を負ひたるのみなりき若し同列車が脫線顚覆せずして尚進行を繼續せしならば或は急行列車の横腹に衝突して大事を釀したるやも知れず因に上下本線には故障無し原因は全く危險信號の掲げありしを機關手が見誤りたるものと判明せり（大船電話）

十五萬圓强奪の

不逞鮮人の片割れ

神戶にて捕はる

盜難の朝鮮銀行券を使用す

一月四日朝鮮銀行が朝鮮雄基より間島鮮銀出張所に輸送中なりし銀行券十五萬圓を龍井村に於て護衞巡査外一名に重傷を負はせ該券を強奪し去りたる不逞鮮人尹俊熙外四[illegible]

[illegible]る鮮人あり、北京より右紙幣を日本勸業銀行に預け入れ更に同行より引換のため朝鮮銀行神戶支店に持參したる處圖らずも夫れが盜難の[illegible]五萬圓の一部なる[illegible]